

質問

湯沢学園開園に向けた教育方針の進捗状況は



南 雲 正

問 小中一貫教育を見据えて9年間の長期的視野に立ち、家庭地域との連携を図るとして家庭教育の重要性を唱え、学校教育力リーダー等によって開園に向けた教育方針の基礎づくりに期待し評価してきた。

答 この取り組みによって小学校では全国学力テスト等の結果が県、全国学力テスト等の結果が県、全国平均に達するまで伸び、成果が見え始めている。全教員を対象にした研修や湯沢教師塾などが教師の意識、指導を変え保育や事業の充実につながっている。残された1年は湯沢学園開園に向けた子どもたちや教師の取り組みの成果をアピールし、オール湯沢を実現したい。

問 スキーを校技とする体育向上を教育課題としながら、県中スキー大会でのクロスカントリーの成績が上がらない。

答 中学校のグラウンドは圧雪車が無くても練習はできる。私が学校に勤めていたときは学校に圧雪車はなくてもインターハイに何人もの生徒が出場した。中学校に圧雪車がなく練習ができなからといって成績が上がらないことはない。

問 20年間近く活躍する子どもたちの様子を広報で紹介し、地域と子どもたちの繋がりを作り好評を得ていたことが、今年から努力して県大会に出場しても全国大会にしなければ取り上げられず、小学校親善大会の結果も今までの6位までの紹介から、3位までしか紹介されていない。

答 広報に全部出すことで子どもたちが喜んで士気が上がるとは限らない。他の町村の広報でも全部出しているケースはあまりないと思う。私も4年間で新しい教育制度の下で具体的に取り組んでいるので温かく見守っていただき、もう少しほめられると元気になるが、叩かれてばかりでは元気が出ない生身の人間である。

低迷するスキー観光の活性化に向けて

湯沢から積極的な情報発信を

問 湯沢町スキー伝承100周年をキーワードに展開されたスキー観光の活性化や大手スキー場の「小学生以下無料」戦略、ファミリィ向けの多彩なサービス等が展開され、目標とする震災以前のペースに戻ることに期待されたが、現段階では何とか震災前のレベルに達しつつあるが、大きな伸びは見えてこない。

答 誘客のための情報発信はスキー場事業者の営業活動としてやるべきことであるが、行政でやるべきことと、民間がやるべきことを官民協働でやるべきことを明確にしてスキー観光の振興に取り組むたい。

問 「みんなで創ろう、活力ある未来の湯沢町」を掲げ、町政の全分野30項目近い事業の実施を公約にして町長2期目に就任し3年が経過し、いよいよ仕上げの年度を迎える。



問 町長2期目の仕上げの年として就任時の町民との約束である公約の実現状況は

答 多くの公約の中で、危険建物の湯沢中学校建替と少子化の進む小学校、保育園の統合、県基幹病院の早期建設、新三國トンネルの早期実現に力を入れたことができなかつたことが数多くあるが夢を持った25年度は皆さんに約束したことを少しでも前に進めるよう頑張っていきたい。

問 「みんなで創ろう、活力ある未来の湯沢町」を掲げ、町政の全分野30項目近い事業の実施を公約にして町長2期目に就任し3年が経過し、いよいよ仕上げの年度を迎える。

答 1期目で実現できなかった公約と併せ2期目の公約実現のために3年間どのような取り組みがなされ、どのような成果が上げられたのか町長自らの評価を伺いたい。

問 「みんなで創ろう、活力ある未来の湯沢町」を掲げ、町政の全分野30項目近い事業の実施を公約にして町長2期目に就任し3年が経過し、いよいよ仕上げの年度を迎える。